

【バイデン外交の展望と課題】 (高畑 昭男)

1. 基本思想、世界観、スタイル

<トランプ政権>

- 縮小・撤退 (retreat): **単独行動志向**
「アメリカ第一主義」
- 最重要課題・脅威: **大国間競争**
「中国、ロシアとの戦略的な地政学競争が最大課題」
- 軍事・安保重視: **国防増強**
- 同盟関係: 相互主義 負担の転嫁
- 国際機関: 信用せず 脱退・離脱
- 対中国: 「**新冷戦**」態勢 総力で対決
- 信条・ドクトリン: “トランプイズム”
大衆感情に訴求 孤立主義
- **制裁を多用**
北朝鮮、イラン、中国、EUに発動

<バイデン政権>

- 縮小・撤退 (retreat): **国際協調志向**
「アメリカ単独では世界の問題を解決できない。諸国との協働が必要」
- 最重要課題・脅威: **地球課題(とくに温暖化防止)**
「温暖化は米国にとって最重要の実存的脅威」
- 外交重視: **国防抑制**
- 同盟関係: 協調回復、**ただし負担増は要請**
- 国際機関: 復帰 指導力回復へ
- 対中国: **対抗と協調** 「冷戦の罠に落ちない」 共存も模索か
- 信条・ドクトリン: 特になし。「顔の広さ」が売り
「**中流階層のための外交**」(大衆へのアピール?)
- **トランプ制裁を生かすか?**

2. 外交・安保チーム

- ケリー特使以外は実務家中心でスターは不在。ジェンダー、人種等の多様性(diversity)アピール
- 序列はケリー、舵取り役はブリンケンか？
- 国務長官 トニー・ブリンケン(58) 元国務副長官。バイデン氏の外交顧問(20年間)、イラン核合意、アジア・リバランス等を担当。イラク侵攻支持。ロバート・ケーガン、ミシェル・フロノイらと交流。ユダヤ系でリベラルタカ派だが、行動は慎重か。
- 国家安全保障補佐官 ジェイク・サリバン(43) 戦後2番目の若さ。元国務省政策企画局長(最年少)。超有能エリート。中東、アジア・リバランス戦略、イラン核合意交渉に深く関与。リアリストとされるが、党派心が希薄で共和党に受けが良いとの評も。対中国で「冷戦思考でなく、競争と協調による共存」を主張(2019年)。
- 国防長官 ロイド・オースティン(67) 黒人初の長官。元陸軍大将。オバマ政権の中央軍司令官。シリア、イラクで「イスラム国」掃討作戦を指揮、イラク、アフガン戦争でも現地従軍し、中東経験が豊富。
- アブリル・ヘインズ国家情報長官(51) 女性初の国家情報長官。理論物理学と法律を学んだ異色の人材。バイデン上院外交委員長時代の同委次席補佐官、オバマ政権でNSC次席、CIA副長官(女性初)等を歴任。
- ジョン・ケリー気候変動問題大統領特使(76): ベトナム戦争従軍後、反戦運動のヒーローに。2004年大統領候補、2009年、上院外交委員長、2013年、国務長官。温暖化防止は「最重要の戦略課題」(World War Zero)。パリ協定を主導、NYTは「ミスター外交」と称賛。国家安全保障会議(NSC)に参加。
- アレハンドロ・マヨルカス国土安保(DHS)長官(61) キューバ生まれのユダヤ系難民家庭出身。ヒスパニック系初の長官。
- リンダ・トーマスグリーンフィールド国連大使(68): 外交官35年。リベリア、スイス、パキスタン大使、国務次官補等。

3. 予想される課題

- **中東・イラン：** 核と地政学を同時に満たす必要
核合意(JCPOA)復帰(条件付き)をどう実現する？トランプ制裁は維持するか。ミサイル、テロ支援等の規制は「イランが規制を順守すれば、継続交渉へ向けて核合意に復帰し、制裁も解除する」(バイデンCNN、9月)
⇔「制裁をカードとして温存し、ミサイル規制等も盛り込むべき」(NYTフリードマン)
「アブラハム合意」(トランプ外交)を評価する一方、イラン包囲網強化を望むアラブ諸国にどう応えるか
パレスチナ和平(特に2国家共存構想)をいかに進めるか
- **北朝鮮：** トップ交渉(トランプ)もだめ、「戦略的忍耐」(オバマ)もだめ。他に代わる手があるか
「最大の圧力」(トランプ制裁)は維持するのか
日米韓の再結束を土台に多国間協議を志向するとの説も(イラン型？ 6カ国協議？)
- **中国・台湾：** 「新冷戦」を回避して「対抗と協調」へ向かうのか
報復関税「すぐには動かない。同盟諸国と協議し、一貫した戦略を練る」(NYT)
「経済デカップリング」、ファーウェイ等をめぐる技術覇権競争を継続するのか
トランプ政権の高官往来、武器供与等の「台湾接近」の流れはどうか
「自由で開かれたインド・太平洋構想」(FOIP)やクアッド(日米豪印)の展開は

課題(続き)

- **日米同盟： 同盟管理と尖閣防衛**
「5条適用は確認」(菅・バイデン電話会談、バイデン側は?) 日本側も尖閣防衛態勢の強化が必要
在日米軍駐留経費改定交渉(トランプは4倍超の年間80億ドルを要求)
「Five Eyes」参加問題と「アーミテージ報告」(日本は米国の懸念を完全に共有すべき)
- **欧州・ロシア： NATO、EUとの協調回復。ロシアには「報いを受けさせる」(バイデン)**
同盟・パートナー関係の復調へ ただし、ドイツの対露エネルギー依存問題は未解決
温暖化問題で米欧協調復活へ
- **核抑止・軍備管理： 新START条約の後継交渉の行方**
中国をいかに巻き込むか。INF条約脱退後の東アジアの核の扱い
トランプは核関連予算を増額。核巡航ミサイルのアジア配備も検討している...
- **環境・地球課題： パリ協定に復帰 「Mr.外交」ケリー特使の見せ場に**
台湾、南シナ海、尖閣等で「**米中取引**」の恐れはないか？
- **国防長官の指名遅れの背景**
女性初の長官として最有力視されたミシェル・フロノイが指名されず。
国防産業に近いとされ、党内左派とリアリスト派の対立が背景に？